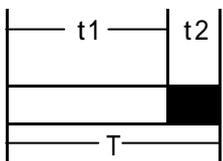
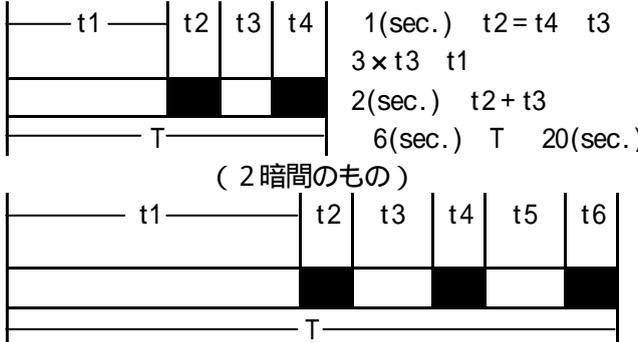
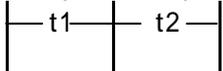
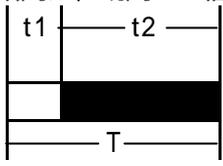
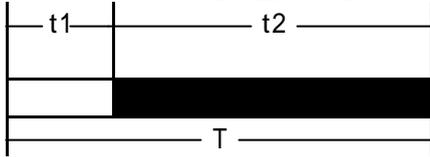
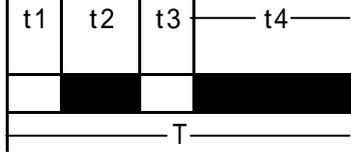
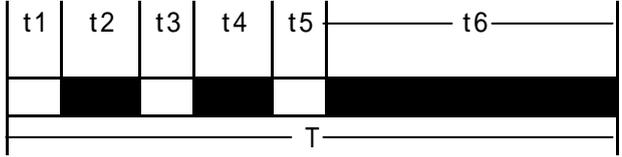
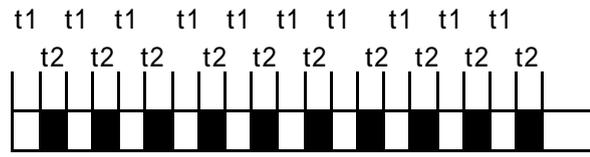
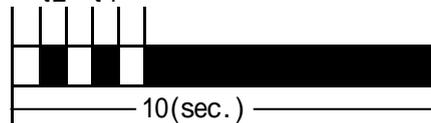
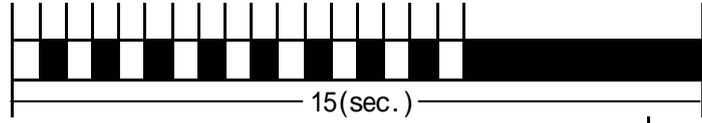
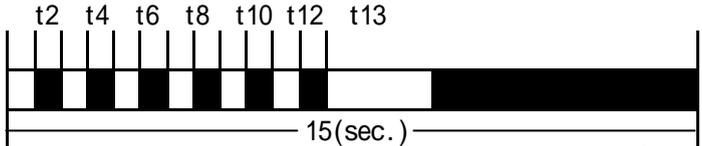
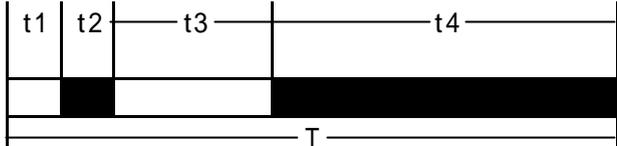
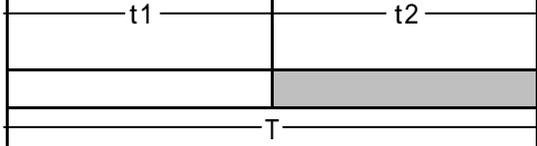
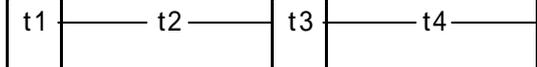


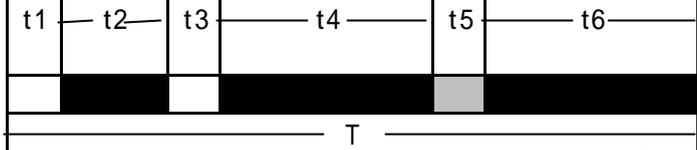
灯 質 ( 光 り 方 ) 規 格

分類	灯略記	定 義	光 り 方	備 考
1 不動光	F	一定の光度を持続し、暗間のないもの		
2 明暗光		一定の光度を持つ光を一定の間隔で発し、明間の和が暗間又は暗間の和より長いもの		
2.1 単明暗光	Oc	1周期内に一つの明間を持つ明暗光	<p>明間は、暗間の3倍以上あるものとし、暗間は1秒以上あるものとする。</p>  <p><math>t1 = 3 \times t2</math> 4 (sec.) T 15(sec.)</p>	
2.2 群明暗光	例 Oc2	1周期内に複数の明間を持つ明暗光	<p>暗間はそれぞれすべて等時間とし、1暗間は1秒以上あるものとする。短明間はそれぞれすべて等時間とし、1短明間は1暗間以上あるものとする。また、長明間は短明間の3倍以上あるものとする。1周期中の暗間数は4以下(例外として5)とする。</p> <p>1周期中に2暗間の場合は、1暗間と1短明間との合計時間は2秒以上あるものとし、1周期中に3暗間又はそれ以上の暗間数を有する場合は、1暗間と1短明間との合計時間は3秒以上あるものとする。</p>  <p>1(sec.) <math>t2 = t4 = t3</math> <math>3 \times t3 = t1</math> 2(sec.) <math>t2 + t3</math> 6(sec.) T 20(sec.)</p> <p>( 2 暗間のもの )</p> <p>1(sec.) <math>t2 = t4 = t6</math>, <math>3(sec.) t2 + t3</math>, (2(sec.) <math>t3 = t5</math>)、<math>3 \times t3 = t1</math>, 13(sec.) T 30(sec.)</p> <p>( 3 暗間又それ以上の暗間数を有するもの )</p>	
3 等明暗光	Iso	一定の光度を持つ光を一定の間隔で発し、明間と暗間が同じ	<p>明間(及び暗間)は、2秒以上あるものとする。</p>  <p>2(sec.) <math>t1 = t2</math></p>	

		長さのもの		
4 閃光		一定の光度を持つ1分間に50回未満の割合の光を一定の間隔で発し、明間又は明間の和が暗間又は暗間の和よりも短いもの		
4.1 単閃光	FI	1周期内に一つの明間を持つ閃光	暗間は、明間の3倍以上あるものとする。  $t_2 = 3 \times t_1$ 3 (sec.) T 15(sec.)	
4.2 長閃光	LFI	1周期内に2秒の長さの一つの明間を持つ閃光	暗間は、明間の3倍以上あるものとする。  $t_1 = 2(\text{sec.})$ $3 \times t_1 = t_2$ 8 (sec.) T 20(sec.)	
4.3 群閃光	例 FI 2	1周期内に複数の明間を持つ閃光	明間はそれぞれすべて等時間とし、また、単暗間はそれぞれすべて等時間とする。1短暗間は1明間以上あり、長暗間は短暗間の3倍以上あるものとする。1周期中の明間数は、5以下(例外として6)とする。 。1周期中に2明間の場合は、1明間と1短暗間との合計時間は1.5秒以上あるものとし、1周期中に3明間又はそれ以上の明間数を有する場合は、1明間と1短暗間との合計時間は2.5秒以上あるものとする。  $t_1 = t_3$ $t_2$ 1.5(sec.) $t_1 + t_2$ $3 \times t_2 = t_4$ 5(sec.) T 20(sec.) (2明間のもの)  (3明間又はそれ以上の明間数を有するもの) $t_1 = t_3 = t_5$ , $t_2 = t_4$ 2.5(sec.) $t_1 + t_2$ , $3 \times t_2 = t_6$ 12(sec.) T 30(sec.)	
4.4 複合群閃光	例 FI (2+1)	1周期内に二つの群閃光又は群閃光と短閃光の組み合わせを	明間はそれぞれ等時間とし、また、長暗間はそれぞれすべて等時間とする。1明間と短時間との合計時間は1秒以上あるものとする	(2+1)閃以外のもの

		持つ閃光	<p>る。 長暗間は短暗間の3倍以上あるものとする。</p>  <p><math>t1 = t3 = t5, t4 = t6, 1(\text{sec.}) \quad t1 + t2, 3 \times t2 \quad t4 = t6, \quad T = 7(\text{sec.})</math></p>	は使用しないこととする。
5 急閃光		一定の光度を持つ1分間に50回の割合の光を一定の間隔で発し、明間の和が暗間の和より短いもの		
5.1 連続急閃光	Q	連続する急閃光	<p>明間はそれぞれすべて等時間とし、また、暗間はそれぞれすべて等時間とする。明間よりも暗間が長いものとする。 1明間と1暗間との合計時間は1.2秒とする。</p>  <p><math>t1 &lt; t2, \quad t1 + t2 = 1.2(\text{sec.})</math></p>	
5.2 群急閃光	Q3	1周期内に複数の明間を持つ急閃光	<p>1周期(10秒)内に連続急閃光と同じリズムの3明間を有するものとする。</p>  <p><math>t1 = t3 = t5, \quad t2 = t4, \quad t1 &lt; t2, \quad t1 + t2 = 1.2(\text{sec.})</math></p>	
	Q9		<p>1周期(15秒)内に連続急閃光と同じリズムの9明間を有するものとする。</p>  <p><math>t1 = t3 = t5 = t7 = t9 = t11 = t13 = t15 = t17</math> <math>t2 = t4 = t6 = t8 = t10 = t12 = t14 = t16</math> <math>t1 &lt; t2, \quad t1 + t2 = 1.2(\text{sec.})</math></p> <p>1周期(15秒)内に連続急閃光と同じリズムの6明間と、その後に2秒の長さの1明間とを有するものとする。 6明間の間の1短暗間と、2秒の長さの明間の直前の短暗間とは等しいものとする。</p> <p><math>t1 \quad t3 \quad t5 \quad t7 \quad t9 \quad t11</math></p>	

	Q6 +LFI		 <p> <math>t_1 = t_3 = t_5 = t_7 = t_9 = t_{11}</math>  <math>t_2 = t_4 = t_6 = t_8 = t_{10} = t_{12}</math>  <math>t_1 &lt; t_2, t_1 + t_2 = 1.2(\text{sec.}), t_{13} = 2(\text{sec.})</math> </p>
6 モールス 符号光	例 Mo(A)	モールス符号の光を 発するもの	<p>短明間は、0.5 秒以上とし、長明間は短明間の3倍以上あるものとする。 短明間と短暗間とはほぼ等しいものとし、長暗間は短暗間の7倍以上あるものとする。</p>  <p> <math>0.5(\text{sec.}) \quad t_1 \quad t_2</math>  <math>3 \times t_1 \quad t_3, \quad 7 \times t_2 \quad t_4</math>  <math>6(\text{sec.}) \quad T \quad 30(\text{sec.})</math> </p>
7 連成不動 光		不動光中に、より明 るい光を発するもの	
7.1 連成不動 単閃光	FFI	不動光中に、単閃光 を発するもの	<p>単閃光に同じ</p> 
7.2 連成不動 群閃光	FFI 2	不動光中に、群閃光 を発するもの	<p>群閃光に同じ</p> 
8 互光		それぞれ一定の光度 を持つ異色の光を交 互に発するもの	
8.1 不動互光	例 AI W.R	暗間のない互光	<p>色の異なる二つの光の時間は等しいものとする。</p>  <p> <math>t_1 = t_2, \quad 10(\text{sec.}) \quad T \quad 30(\text{sec.})</math> </p>
8.2 単閃互光	例 AIFI W.R	1周期内の二つの単 閃光が互光となるも の	<p>明間はそれぞれすべて等時間とし、また、暗間はそれぞれすべて等時間とする。暗間は明間の3倍以上あるものとする。</p> 

			 <p> <math>t_1 = t_3, t_2 = t_4, 3 \times t_1 \ t_2,</math>  <math>10(\text{sec.}) \ T \ 30(\text{sec.})</math> </p>
8.3 群閃互光	例 AIFI 2 R.G 例 AIFI 3 W.R.W	1 周期内の群閃光の各閃光が互光となるもの	群閃光に同じ  <p>( 2 明間のもの )</p>  <p>( 3 明間のもの )</p>
8.4 複合群閃互光	例 AIFI (2W+1R)	1 周期内の複合群閃光の各群閃光又は群閃光と単閃光が互光となるもの	明間はそれぞれすべて等時間とし、また、長暗間はそれぞれすべて等時間とする。 長暗間は短暗間の 2 倍以上あるものとする。  <p> <math>t_1 = t_3 = t_5, 2 \times t_2 \ t_4 = t_6</math>  <math>20(\text{sec.}) \ T \ 30(\text{sec.})</math> </p>